

トマトツメナシコハリダニによる トマトサビダニの生物的防除に向けて

河合 章 氏

(野菜茶業研究所・日本応用動物昆虫学会会長)

日時：2011年10月28日(金) 16:30頃～18:00頃

会場：明治大学生田キャンパス 中央校舎 0309 教室

トマトサビダニは1986年に国内で初めての発生が認められ、1990年頃から殺虫剤の使用の少ない施設を中心に各地のトマトで重要害虫となっている。他種害虫を対象に散布された殺虫剤により抑制されていた密度が、殺虫剤使用量の削減と有効範囲の広い殺虫剤の抑制によって発生が増加したと考えられるが、こうした「エコ農業が生んだ害虫」は根本的に防除手段が不足しているため、発生した場合の対応は難しい。演者はトマトサビダニの天敵としてトマトツメナシコハリダニを見だし、生物的防除資材としての実用化をめざしたプロジェクト研究を実施した。講演では、明らかになった本種の生物学的特性や防除効果、開発した施用技術、薬剤感受性などを紹介し、今後の実用化に向けた問題点についても考察する。

問い合わせ：農学部 応用昆虫学研究室 糸山 享

(5号館208、内線7810)